

第 **20** 回

日本手話教育 研究大会



2021年

2月20日(土)

10時~16時

zoom によるオンライン開催



中島 武史 氏
なかしま たけし

大阪府立だいせん聴覚高等支援学校教諭
関西学院大学手話言語研究センター客員研究員
大阪大学博士(言語文化学)

著書:
『ろう教育と「ことば」の社会言語学』2018年、生活書院
分担執筆の著書:
Literacy and illiteracy, Routledge Handbook of Japanese Sociolinguistics, 2019, Routledge
『ろう教育における「やさしさ」の諸相』『ことばの「やさしさ」とは何か』2015年、三元社

〈午前の部〉基調講演 10時~12時

「日本手話の位置取りと、ろう教育の近況と — 社会言語学の視点から —」

「言語としての手話」という認識は、日本手話のなかに言語性を発見したことがきっかけで広まりました。

今では言語としての手話が法的にも認められています。しかし、実際に生活している社会のなかで日本手話が日本語と対等に扱われていると思う人は少ないでしょう。

言語学ではすべての言語は対等ですが、現実社会のなかでは平等に扱われていないということについて、今回の講演では社会言語学の視点から見ていきます。また、ろう学校(聴覚支援学校)の近況についても取りあげます。

ろう学校は、日本語が支配的な社会のなかに存在している教育機関であるという背景から、ろう学校の抱えている問題点を分析し、「人事異動システム」「読み書き能力(リテラシー)」「手話への意識」などをキーワードにお話しします。

〈午後の部〉研究発表 13時30分~16時

※発表内容については裏面をご覧ください

使用言語 ▶ 日本手話 ※日本語への通訳はございません

~ 参加費 ~ **法人会員・サポーター ▶ 2,000円 / 一般 ▶ 2,500円**

※ たくさんの方々に見ていただきたく、参加費を値下げいたしましたので、是非多くのご参加をお待ちしております!

~ 申込み ~

下記サイト「こくちーず(告知'S)」よりお申し込みください。

<https://kokucheese.com/event/index/594021/>

※ 申込みメ切は、**2021年2月3日(水)まで!**



《申込QRコード》

~ 支払方法 ~

PayPal ペイパル による決済

〈PayPal(ペイパル)についての詳細は右記サイトをご参照ください。〉 <https://www.paypal.com/jp/home>

※ ご入金につきましては、お申し込みを承りました日より2週間以内に、NPO法人手話教師センターから「ご入金のお願い」のメールが届きますので、そのメール内容をご覧の上、ご入金をお願いいたします。

「手話寺子屋オンライン講座の取り組み」 ～新型コロナウイルス流行前の対面講座と比較して～

弊社の運営する手話教室「手話寺子屋」は、ろう者の言葉である「日本手話」を尊重し、その啓蒙と普及のため実施している。

本年度4月より予定していた講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮しすべて休講とした。

これを機に、コロナ禍においても日本手話を学べる環境を提供すべく、オンライン講座の開設に至った。

対面とオンラインでの指導方法や受講上の注意点の違いや、手話未経験者へのモニターを通したナチュラルアプローチの難しさなど、現状と課題を報告する。



(株)アウトソーシングビジネスサービスWPグループ
手話寺子屋 日本手話講師
NPO法人手話教師センター

小倉 友紀子氏 / 高田 和香子氏

「オンライン授業の特性を活かした指導 ～ 実践報告と今後の課題 ～」

関西学院大学では「日本手話」を第二言語科目として開講しており、2年間の修学を通して、自分自身や身の回りで起こったことについて会話ができるようになることを、到達目標として掲げている。

2008年度の開講以来対面授業での指導を行ってきたが、この度新型コロナウイルス感染拡大防止策として、オンライン授業での実施を余儀なくされ、指導法にこれまでにない工夫や対応が求められた。様々な制限がかかるなかで、学生の日本手話理解度や習熟度を紙面で視覚化できたことは、オンライン授業の最大の利点であったと言えよう。

本発表では、オンライン授業の実践報告及び、そこから見えた成果と課題について述べ、手話指導の新たな可能性を探る。



関西学院大学 非常勤講師
関西学院大学
手話言語研究センター 研究特別任期制助教

前川 和美氏 / 下谷 奈津子氏

「ろう乳児に対する かずと数字の手話表現と概念の育て方」

日本手話と書記日本語のバイリンガルろう教育を行っている明晴学園では、併設している児童発達支援事業所「明晴プレスクールめだか」が乳児クラス（0歳児から2歳児）を担っている。メインの指導者が日本手話ネイティブのろう者であるため、ろう児に対する理解と期待値は高い。活動の主な目的は、ろう児の母語である日本手話を育てると共に、さまざまな体験を通して知識や概念を養うことである。乳児とのコミュニケーションにおいて有効な手話は、単語ではなくNMやCL、PTといった文法要素であり、ろう児の認知プロセスに合ったアプローチを行っている。ここでは、ろう児の「言語発達」や発達に応じた「かずと数字の手話表現」について紹介する。



児童発達支援事業所 明晴プレスクールめだか
児童発達支援管理責任者・保育士

池田 亜希子氏

実践報告

「DVD〈おわり〉のリメイク版を発行して」

DVD〈おわり〉は、2011年にNPO法人手話教師センターが制作・販売（現在は販売終了）。今回のリメイク版（2020年版）を製作するにあたり、株式会社アウトソーシングビジネスサービスが制作に携わりました。

〈おわり〉の手話は、上に向けた両手のひらを下におろしながら手をすぼめる動きをします。非手指標識やスピードで意味が変わります。

2011年版のリメイクなので、同じように撮影すれば完成させることができると思っていたのですが、そう簡単なことではありませんでした。映像と字幕の払い出しや、表現者の地域差や経験差でやむを得ず、撮影内容を変更することもありました。

今回、リメイク版制作者として考察したものを、実践報告させていただきます。



NPO法人手話教師センター

寺澤 英弥氏

【主管】「第20回 日本手話教育研究大会」実行委員会

〈Mail〉jslt.rm@gmail.com 〈Facebook〉<https://www.facebook.com/jslt.rm2018/>